



三ツ木神社算額（全体(上)と中央部分(左)）
 図形は辛うじて少し見えるが文字は判読不能
 図形・文字ともわかる形で『埼玉の算額』に
 所収されています。

小川町の和算家の墓

『北武蔵の和算家』を読まれた比企郡小川町の内田康男様から、小川町の和算家三名の情報とお墓の写真をいただきました。

馬場與右衛門、澤田傳次郎、嶋野善蔵の三名です。いずれも上州出身の市川行英の門人で、市川行英に提出した文政九年の神文（大正八年の写し）が日本学士院にあります。

馬場與右衛門は田中與八郎・久田善八郎とともに文政十三年に慈光寺に算額を奉納していて、その問題内容は判明してはいますが、澤田傳次郎・嶋野善蔵については何もわかっていませんでした。今回お墓から没年等が判明しました。また、澤田傳次郎の娘婿が馬場與右衛門の弟長八ということでした。なお、三名とも小川町腰越の人です。

馬場與右衛門については、三上義夫が訪問した時には位牌を確認したようですが、その後院号を頂いたためか位牌は現存しないそうです。同家は代々組頭役に就任したが、明治初期に火災に遭い和算関係の史料はなく、墓は昭和二十七年に建てたものといえます。

（正面）大龍院関山惠通居士／楞法院端賢妙嚴大姉／（右脇）弘化二年七月八日歿／重八父 俗名與右エ門 行年四十一才／明治十二年三月十九日歿／比企郡明覚村大字田中柿沼仙助叔母／全 母 豊 行年七十才／（左脇）昭和二十七年八月建／施主 馬場重八



馬場與右衛門墓



澤田傳次郎墓



島野善蔵墓石（表面）（梵字）稱號清契信士
 ／慶應三卯八月七日／稱譽妙清信女／文久三
 亥五月廿五日／俗名善蔵／妻 リエ／島野弥
 兵衛立之



島野善蔵墓

三上義夫の礼状

内田康男様から小川町の郷土史家・大塚仲太郎氏の『智理塚』（大塚紀子家文書）の中から和算関係の文章を抜き出したものをいただきました。

それは、三上義夫が大塚家を訪れた昭和十年四月二十一日のことから始まるものでした。大塚氏の記述によると三上義夫は他に昭和十一年十一月十日と同二十四日の都合三回、小川町に和算家の調査で訪れています。文章は大塚氏の調べた内容と、それを受け取った三上の礼状などから成っています。

三上は独自に調査した内容も含めて、「北武蔵の数字」「武州比企郡竹澤小川の諸算者」等を著しています。ここでは調査でお世話になった大塚仲太郎氏への三上の礼状三通を紹介いたします。三上の調査の一端を知る貴重な資料になるものと思います。

①昭和十年五月十一日付け礼状

【同年四月二十一日に大塚家を訪れ、その後大塚氏が調査した内容を報告した礼状】

拜啓過般は突然御尋ね申上げましたところ色々御懇切なる御指教を戴き御蔭を以て調査上に多大の便宜を得ました事を深く感謝いたします。猶森右膳祖沆の算法に就き御報に預り深く御好意の段を感銘いたします。同氏は全く知らないで居りました。何れ充分に調査を遂げ御好意に報ひたいと存じます。

御指示により大串の毘沙門堂並に指扇の秋葉さんへも参詣しましたところ前者では算額は見当らず堂守りも不在で尋ねる事も出来ませんでした。が秋葉さんでは二面の算額があり、一面は中種足都築源右衛門社中のもので不判明でありました⁽¹⁾。一面は大谷領向山及び横見郡下吉見領井河新田の人の奉額であります⁽²⁾。此方は明瞭で写し取りました。向山は上尾驛附近で子孫も居りました。下吉見領とは松山在の地方かと存じますが井河新田の地名を地図上に見出し得ず何れの地であるかと案じて居ります。御教示を戴けば仕合せであります。

竹澤へも行つて見ましたが松本寅右衛門と栗嶋寅右衛門は同一の人と判明しました。同村勝呂に落合勝太郎といふ算者あり同村木部浄音寺の空外和尚に習ったといふ事でしたが、和尚の事も寺でも無住で何も知られない

でした。

勝呂の吉田勝品の事は何も聞く事が出来ないのが残念でした。

先は御礼申上度、尚算法又は算家に関して御見聞を御漏し戴く事も出来ずなら仕合せであります。御援助に依つて北武蔵地方の諸算家の事蹟を明らかにしたいものと期待いたします。

藤田貞資門人神谷定令門人

武州小川邑 小林清左衛門包教
寛政十一年額

と申す人物は未だ調べませんが御地に子孫が有りますか何らか判りましたら何分宜しく御願ひいたします。 草々敬具

五月十一日

三上義夫

大塚仲太郎様

侍史

(1) この算額は明治十六年のもので『埼玉の算額』に所収されているが問題判断不能とあり。
(2) この算額は天保十一年のもの（本誌第20号及び『北武蔵の和算家』P.255参照）。

②昭和十一年十一月四日付け礼状

【吉田勝品や杉田久右衛門等を大塚氏が調査した内容を報告した礼状】

拜啓御手紙難有拝読いたしました。竹澤村勝呂の吉田勝品の事を特に御報に預り御蔭で

好き参考になりました。前に同地へ遊びながら判明し兼ねた事を何とも御恥かしく存じます。

「一代誌」といふ稿本があります由も面白く是非一読したく尋ねて見たい積りて居ります。川田弥一右衛門は至誠賛化流でありますから関九傳と云へば多分上州市川行英あたり門人で寅右衛門とその辺同じではないかと存せられ其辺の關係など知りたく存じます。

勝品碑にて慈恩寺の空外が勝品の門人であった事も知られ全く貴臺の御調査で明らかになりました事を深く感謝いたします。

先般御報の寺院焼失の分も幸に貴報によつて人名が知られましたので村名が知れ遺族を知る事も出来ませぬと希望いたします。如何なるものでせうか先は右御礼申し上度乍末筆呉々も御自愛を祈上げます。 草々

十一月四日

三上義夫

大塚尊台

侍史

③昭和十一年十一月十一日付け礼状

【吉田勝品や杉田久右衛門等を大塚氏が調査した内容を報告した礼状】

拝啓過般は勝呂の吉田源兵衛碑文並に同一代誌の件を御報に預り御蔭で同人の事も明らかなつて甚だ御嬉しく昨日同地を訪ひ一代誌と外に算法實術解と云ふ一稿本を披見しまし

た。尚軸物があると云ふ事でしたが折悪しく婦人ばかりで見出されないので残念でありました。此軸物があれば或は関流九傳といふ傳系が知り得られるのかと存じます。

一代誌には笠原村の福田重蔵と云ふ先生から関流九傳を免許されたとありますが餘りに疲れましたので福田の跡をも尋ね兼ねました。福田の学力は極めて低いもののやうには思はれますが此人の事も調べたいと存じます。福田から傳授を受けた後に小川下宿杉田久右衛門に門入したとありますが、此人は幕府の算家黒川山城守の門人とあり、黒川は古川山城守氏清の事を書き誤つたものと存しますが古川が恰も五百石の禄でありました岡陣屋の川田弥一右衛門も古川派の算家で著述はないやうでありますが相当の人物であつたやうで岡陣屋の稲荷に元と算額があつたといふのが今は御宮も移され残つては居りません。杉田は此の川田と並び称せられたと云へば此れも可なりの人であつたのではないかと思はれます。杉田は富家の事で弟子は取らなかつたとありますが書物など多くあつたと云へば其人の事も知つて置きたく存じます。質と酒造で上下三十人餘の家内であり随分繁昌の事と思ひますが家は今も有りますでせうか。何れ取調べたい事に存じますから何分宜しく御願ひ申し上げます。

全く御報道を得ました御蔭で吉田勝品の事も知りました。福田重蔵及び杉田久右衛門の

存在をも承知いたし御地方の数学に就いて兼て承知の上州市川行英の系統とは別に且つは多分其傳授以前の様子を多少にも手懸りの出来ましたのは此上なく御嬉しく折入り感謝いたします。勝品は松本寅右衛門とは全然關係はないやうに一代誌からは見られました。

十一月十一日

義夫拝

大塚賢台

侍史

編集後記

下の図は隠れ線消去を行ったものです。仕事で三十歳頃に作成したもので、この図形だけ保存していました。当時のことが甦つてきました。このプログラムはF社の標準ライブラリーになった筈ですが四十年前も前のことです。

今号は小川町の内田康男様から頂いた貴重な資料を紹介させて頂きました。内田様に感謝し御礼を申し上げます。

